

令和4年度 第4回円山川流域懇談会 議事骨子

日 時： 令和5年1月13日(金)15時00分から17時00分
場 所： 円山川防災センター 2階 会議室

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - 1) 進捗点検に関する報告 [資料2]
 - 2) 事業実施報告会について [資料3]
 - 3) その他
4. 閉会

■審議の概要

1) 進捗点検に関する報告(資料2)

進捗点検に関して事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような意見が出された。

【意見】 ひの其他地区での県道かさ上げはどのように進めるのか。

【回答】 堤防自体がつながっていない区間があるので外水対策を先行し、その後県道のかさ上げを行う。

【意見】 日高地区では砂州状に砂が堆積しているが、景観ポイントでもあり、どのように対処されているか。

日置地区では堤防を越える道路の勾配はきつくないのか。

【回答】 日高地区では流れ自体は大きく変わっていないが、堆積している状況が確認されている箇所もある。一定以上の堆積がある場合には河積確保のために掘削を行っている。

日置地区の道路は、道路構造令等の基準に従って、安全に配慮し整備を行う。

【意見】 中郷遊水地の上池周辺の内水対策についてどのような状況となっているのか。

また、遊水地の完成年度はいつか。

遊水地が完成した時に機能テストを行うのか。

【回答】 上池においても中郷遊水地は治水機能だけでなく湿地再生を行うこととしている。今後の湿地整備を検討する際に内水対策にどのように寄与するのか検討することになる。

完成年度は予算の関係もあり確定はできないが、できるだけ早く完成を目指す。

越流堤を越えないと遊水地に水が入らないため、ダムの試験湛水のような供用前のテストを行うことはできないが、出水時における堤体の浸透状況や挙動などのシミュレーションに基づいた設計図書に従って、築堤材料や施工方法などを選択して整備を行っている。

【意見】 除草や伐木を配布しているがどのような利用目的で使用されているのか。

国勢調査では堤防の植生調査は行わないが、外来種や毒草がある場合があるので堤防の植生調査をしていただいたほうが良いのではないかと。調査方法は別途お渡しする。

【回答】 除草は牛などの飼料や農地のマルチングに使用されていると聞いている。伐木については薪ストーブの燃料に使用していると聞いている。

堤防の植生調査は、国勢調査のタイミングで基本調査マニュアルに基づき表法面を実施することになっており、特定外来生物が発見された際には記載しているが、裏法面は実施することにはなっていない。ご意見は参考にさせて頂く。

【意見】 整備計画は何年で達成するのか。今の整備計画が完成すれば何もしないのか。

【回答】 河川整備計画を策定したときに概ね20年を目安としていた。このため、今の整備計画メニューが終わる前に次の整備計画を策定して事業を行うことになる。

【意見】 湿地の質的改良で対照区が2つのみであるため、定量的な評価が見えにくいかもしれない。外来植物の侵入抑制(加陽地区)の点検区分がBであるが定量的に評価できないのか。

上下流の連続性の改善と合流部の落差解消は進捗していないが、どのように進めていくのか。

【回答】 外来植物の侵入抑制の指標は進捗点検を始める際に実施状況を定性的に表すこととしたため、今回もこのように表現している。

上下流の連続性と合流部の落差は、市などが管理しているため、施設の更新時にはアドバイスしているが、これらの解消は市に委ねている状況である。

【意見】 円山川の一つの特徴として、連続性が確保されているというところがある。自然再生の大きなテーマとして自然再生計画推進委員会の中で県や市に取り組みについて話してもらったほう良いと思う。

【意見】 フラップゲートは、遊水地の環境樋管に導入されるとのことだが、人為的に操作することもできるのか。内水や試験湛水的なことのために、人が操作できるようなシステムも入れたほうが良いのではないのか。

【回答】 寺内第2樋門のフラップゲートでは、異物をかみ込んだり、前面に土砂がたまって開けられないときのために、油圧で開け閉めできるようになっている。同様の構造も検討したい。

【意見】 コウノトリの野生復帰への取り組みの②地域住民との連携の達成度の指標として「加陽湿地まつり」とあるが、これはコウノトリの野生復帰への取り組みの指標となるのか。

【回答】 円山川水系のコウノトリを中心とした生態系をどのように守っていくかといったことなどについての関心や知識をイベントを通して培っていくという意味合いでここに載せている。

【意見】 正常流量は確保されているが、気候変動が激しくなっているため渇水になった場合の対応の協議は行われているのか。

【回答】 円山川では流況が安定しているため対策協議会は最近開かれていない。

【意見】 流況は安定しているとのことだが、何もない間に調整などの準備しておくことは重要である。

【意見】 上下流の連続性に課題のある場所と合流部に落差のある具体的な場所を教えてください。

また、堤防、護岸等の管理で河川管理施設等の変状の確認数が以前に比べて増えているが、補修を行ってもすぐに見つかるということなのか。

【回答】 上下流の連続性と合流部の落差については、資料2-2の環境-5と環境-6の実施状況に対策状況を示しており、上下流の連続性はカケヒダ井堰他計4施設、合流部の落差は奈佐川第3樋門と向鶴岡落差工で未解消である。

河川管理施設等の変状についてよく見られるのは、古い時代に作られた護岸等が経年劣化などで壊れているもの、護岸の目地から木が生えて護岸が変状したもの、イノシシやモグラなどの動物の穴も結構多い。このため、堤防のような土構造物では、ある場所を補修しても、また他の場所でも変状が見つかるといったことになっている。

【意見】 水生生物調査については、小学3年生を対象に水質階級を使って取りまとめを行っているが、(内容を理解するには)低学年すぎるということを、また、水質階級そのものを分けることに意味があるのか、疑問を感じている。全国統一で行っているのであれば仕方ないと思うが、子供たちが環境をより理解できるようなものがあったら良いと思う。

コウノトリにとっての自然再生の評価がどこにもないので、1項目まとめるぐらいのものがあったらよいのではないかと思います。

2) 事業実施報告会について(資料3)

今後の事業実施報告会の進め方について事務局から資料に基づいて説明があり、了承された。出された意見は以下のとおりである。

【意見】 報告会の構成員を絞るという事務局案でよいと思う。

【意見】自然再生推進委員会の技術部会のメンバーに含まれている委員が多く、推進委員会で確認できるため良いと思う。点検シートなどの資料は全メンバーに毎回共有されるべきだと思っている。

【意見】基本的には良いと思うが、自然再生は地域にとってわかりづらいという声を聞くので、住民の方にも関心を持たれるようなPRの方法等を検討することが望ましい。

【意見】治水に関して技術的な面の変化や堤内地の対策など、流域治水としてどのような動きになっているかなどのお話もしていただければと思う。

3) その他

【意見】河川災害発生危険時の安全な住民の避難に関して、河川管理者が持つ情報をわかりやすく住民に発信することが重要である。

以上